

2009
ima

美術展2009 [ima] 長崎

ART EXHIBITION 2009 [ima] NAGASAKI

実行委員会から

現代を見つめる美術展「ima」展は今回で8回目となります。これまでに著名な美術評論家や作家にお話を伺い、そして招待作品を鑑賞する機会を得ました。作品の講評は主に美術評論家にお願いしました。今回は前伊丹市立美術館館長の坂上義太郎さんです。坂上さんは「命を考える展覧会を振り返って」と題して講演会もお願いしました。

伊丹市立美術館で行われた、子供たちと現代美術作家による「命を考えるワークショップ」はアートを使ったコミュニケーションとも言えます。

「ima」展も近年ワークショップに力を入れております。これはアートの多様性の確認と現代美術の実践により「創る楽しさ」の獲得が狙いです。アートは修練した人だけのものではありません。もっと人生を楽しむためにアートは身近に感じるべきなのです。

人は物を見るとき五感を使って観ます。眼、耳、鼻、舌、皮膚で見るわけです。現代の多様な美術を前に五感で見て感じとってはいかがでしょうか？

招待作家のお二人はとても大胆で、繊細な表現もあります。ブリックホール1Fエントランスでは最初にウエダリクオさんの立体作品「ウインドドローリング」と出会います。この装置を使い長崎の風を受けたら、一体どんな作品が出来上がるのでしょうか？

ウエダリクオさんは黒崎東小学校児童と同校周辺にてワークショップ「風のドローリング」を行います。子供たちにとって、楽しみな一日になりそうです。

ブリックホール3Fでは1部屋を使って片山雅史さんの作品を展示します。訪れた方は、閉ざされた空間に置かれた作品をじっくり体感していただけると思います。

遠藤周作文学館では今年も静謐な空間に平面、立体作品を展示します。大中尾棚田では野外作品を展示しますが、大中尾棚田保全組合の皆さんによる火祭り(2/1開催)が企画され、2,500本を越える明かりが灯り幻想的に盛り上げてくれます。

最後になりましたが今回参加出品して下さった方々、本展に快く協賛していただいた皆様と報道各社のご支援に心より感謝いたします。

美術展2009[ima]長崎

実行委員会会長

井手 哲比古



【招待作家の紹介】



ウエダ リクオ
アーティスト

【略歴】

1997年デンマークのアーティストインレジデンスに招待され風を使ったインスタレーションを作。これをきっかけに、制作発表の場を海外に移す。大阪トリエンナーレ2001年受賞、2002年IKON(バーミンガム)のオフサイトプロジェクトに招待。エルンストバルラハ美術館(ハンブルク)オーフォスクンストフォーリン(デンマーク)、セントニコライ教会(ハンブルク)、ペロン1(オランダ)などで個展開催。インディアナ大学、ポールステート大学、ウォバッシュ大学、チャールストン大学、デュバア大学からゲストアーティストとして招待。2007年ティコティン美術館(イスラエル)にてスティーンラスムッセン(デンマーク作家)とのコラボレーション作品を発表。風のごとく国境を越え、あらゆるものがリンクしている事の表現を目指す。

1973年より3年間、ヨーロッパ、中近東、アジアをヒッチハイクで放浪したのがきっかけで美術をはじめる事になりました。この旅のなかで出会ったスコットランドの青年にもらった詩が、今でもコンセプトとなっています。その頃は、大地に足を踏みしめて生きる事を嫌いました。地表から10cmほど足を浮かして歩くことに喜びを感じていました。この事は、学生時代に知ったディオゲネスに影響を受けたかも知れません。最近出会った、葉と茎だけの植物サルオガセモドキは、太陽の光と空気だけで生き、風で移動します。まさにディオゲネスもなし得なかった理想の生物のように思えます。あれから30年以上が経ち、今では常につま先で蹴り上げないと足が地面に付いてしまいます、どうしたものでしょうか。

ウエダリクオ 作品紹介



招待作家によるギャラリートーク

日 時：2009年1月25日(日) 10:30開場／11:00開演
会 場：長崎ブリックホール3階 国際会議場



ウエダ リクオ
アーティスト



片山 雅史
(かたやま まさひと)
美術家

招待作家によるギャラリートークによせて

記念すべき「美術展2009[ima]長崎」の展覧会初日に招待作家であるウエダリクオさんと片山雅史さんにギャラリートークを行っていただきました。

ウエダリクオさんのギャラリートークは、過去にヨーロッパで制作展示してきた作品の数々を紹介していただきましたが、作品を見るだけでは解らないような事まで沢山聞かせていただきました。

日本人作家が海外で活躍する話は、将来海外での活躍を希望している人に勇気を与えたことでしょう。

片山雅史さんのギャラリートーク前半は制作に関する話をいただきましたが、「片山さんそこまで話していいの？」と思わず言ってしまいそうな内容までお話しいただき、とても興味深いものでした。

また、後半は福岡市で現在も取り組まれている「ひまわりプロジェクト」について熱く語っていました。

今回のギャラリートーク会場へ来られた方は、二人の招待作家の作品を理解するためだけでなく現代美術を鑑賞する上でとても参考になったことでしょう。

美術展2009[ima]長崎
実行委員会会長 井手哲比古



ワークショップ



「風のドローイング」 ウエダ リクオ

日 時：2009年1月26日(月) 9:30～11:30

会 場：天満宮神社(長崎市外海地区)

対 象：黒崎東小学校5・6年生(16名)

今回のワークショップは、「ウインドドローイング」

まず、自然を使った現代美術作品の写真を見ながら現代美術のお話を聞いたあと、木の枝などに紐やクリップを使ってペンを取り付けた仕掛けが風を受けて、様々な線を描き出す「ウインドドローイング」にみんなで挑戦しました。

最初は戸惑っていた子ども達も、それぞれにお気に入りの場所を見つけると、「どうしたら風が描いてくれるのか？」自分で考えながら、落ちている小枝や石などで工夫をこらした自慢の仕掛けが出来上りました。風が描いて出来上がったドローイングは、今日のワークショップの思い出として、自分が一番気に入った部分をトリミングし、白いペンで落書きした葉っぱや花びら、小枝などと一緒に透明のCDケースに入れました。

最後は世界中のいろいろな街の風を集めているリクオさんからのリクエストを受け、子ども達の代表が黒崎の風を集めてリクオさんにプレゼントしました。

— 黒崎東小学校でのワークショップによせて —

黒崎東小学校のみなさんへ

ブリックホールから車で1時間程海岸線を走ると黒崎東小学校へ辿り着きました。学校の前には海が広がり、裏には山があります、すぐ近くの丘の上には神社もあります。僕には、ものすごく贅沢な学校に思いました。全校生徒が57名、先生方のご苦労もあることと思いますが、子供達に十分な目が届くという事で、子供達の笑顔を見ていると幸運だと思いました。黒崎東小学校の皆さん、ありがとうございました。校長先生にも参加して頂き子供達とともにウインドドローイングを制作する事ができました。風を待ったり、上着で風を作ったり、紙を自分の手で動かしてみたりと、風だけにとらわれずに自然とのコラボレーション(共同制作)を楽しんでもらえたと思います。自然の中で制作すると、思いがけない発見があります。5、6年生の皆さん、天満宮神社の境内で面白いアイデアをたくさん見せて頂いてありがとう。

長崎では、3日間という短い滞在でしたが、最後の日に行ったワークショップが僕にとって一番楽しい思い出となりました。

ウエダリクオ

